

【保護者の方へ】

予防接種の前に必ずお読みください

# ジフテリア・破傷風(DT)予防接種 説明文

ジフテリア・破傷風(DT)ワクチンの接種を実施するにあたって、接種を受けるお子さんの健康状態をよく把握する必要があります。予防接種の前に必ずこの説明文をお読みになり、「ジフテリア・破傷風 2 期 予防接種 予診票」にご記入の上、医師の診察を受けてください。

\*予防接種の効果や副反応などについて理解した上で、お子さんの予防接種についてご判断いただきますようお願いいたします。

## 1 病気の説明

### (1)ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。1981 年にジフテリア百日せき破傷風混合ワクチン(DPT)が導入され、現在では国内の患者発生数は年間 0 が続いています。感染は主にのどですが、鼻腔内にも感染します。症状は、高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜がのどにできて窒息死することもあります。発病 2~3 週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

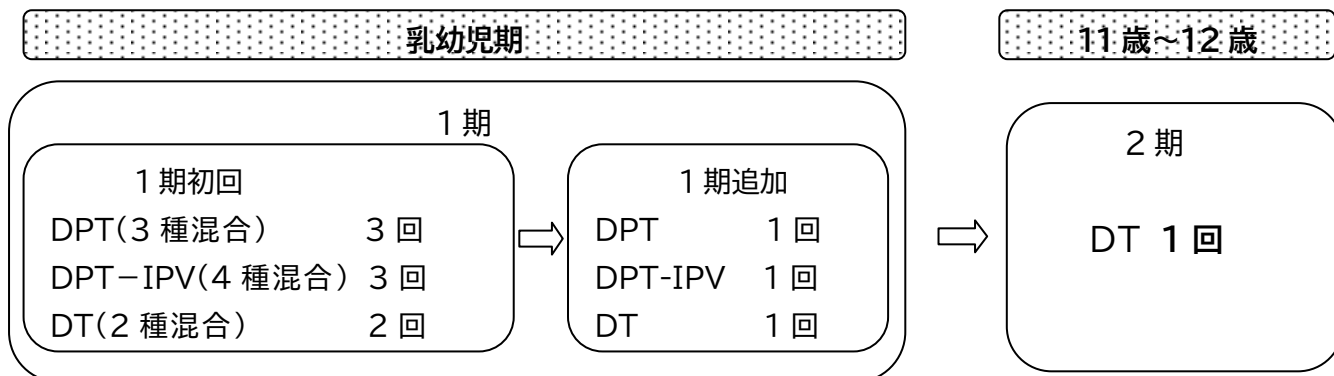
### (2)破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。患者の半数は本人や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、妊娠中の母親が抵抗力(免疫)を持っていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

## 2 ジフテリア・破傷風(DT)ワクチンと効果について

ジフテリアトキソイド及び破傷風トキソイドを混合した不活化ワクチンです。ジフテリア・破傷風(DT:2 種混合) 2 期の予防接種は、お子さんが乳幼児期に接種したジフテリア・百日せき・破傷風(DPT:3 種混合)、ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ(DPT-IPV:4 種混合)又はジフテリア・破傷風(DT)1 期で得られた免疫効果を高めるために実施するものです。DPT(又はDPT-IPV、DT)1 期の接種が不十分(2 回以下)の場合は、医師に相談しましょう。

### (接種例)



## 3 接種時期について

対象年齢	接種回数
11~12 歳	1 回

(裏面に続く)

#### 4 予防接種を受けることができない方

- (1)明らかに発熱(通常 37.5℃以上をいいます)している方
- (2)重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- (3)このワクチンに含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある方

「アナフィラキシー」とは、通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことで、発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状やショック状態になるような、はげしい全身反応のことで、

- (4)その他、医師が予防接種を行うことが不適当な状態と判断した場合

#### 5 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人

- (1)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- (2)過去に予防接種で、接種後2日以内に発熱・発疹・じんましん等アレルギーを思わせる異常がみられた方
- (3)過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある方  
けいれんの起こった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後起こっているか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ずかかりつけ医と事前に相談しましょう。
- (4)過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- (5)ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことがある方

#### 6 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- (1)予防接種を受けた後 30 分間程度は医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- (2)接種後、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。また、接種部位の異常反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- (3)接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが接種部位をこすことはやめましょう。
- (4)接種当日は、激しい運動は避けましょう。

#### 7 副反応について

副反応として、注射部位の発赤、腫脹(はれ)、疼痛、硬結(しこり)などがあります。いずれも一過性で2~3日中に消失します。ただし、硬結は1~2週間残ることがあります。全身症状としては、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、下痢、めまい、関節痛などがあらわれることがあります。

医療機関から副反応の疑い例(有害事象)として報告されたうちの重篤症例(報告者が重篤として判断するもの)の発生頻度は、0.0002%です。(平成 25(2013)年 4 月 1 日~令和 6(2024)年 9 月 30 日までの数値。)

#### 8 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

※給付申請の必要性が生じた場合には、診察した医師、江別市保健センターへご相談ください。

お問い合わせ先:江別市保健センター TEL011-385-5252